

●夜。色しきの屋敷。

客人、起きておるか？

入るぞ

●部屋の襖を開ける音。

準備はできておるな

着いてくるがいい

行こう

●廊下しきを歩き始める色、影えい、主人公。

太鼓の音が聞こえるか？

●遠くで太鼓の音が聞こえる。

これは祭りが終わる合図

もうじき

この里の結界が一時的に開く

場所は：

影えいが案内できるじやろう

そうだね

貴方と最初に出会った場所

あその近くに

古いトンネルがあるの
そこから外に出られる

儂らの協力で

安心するのはまだ早いぞ

お主が里から出るのを
良しとしない者がおる

影と儂が

里を抜けられなかった原因

始まりの鬼…

人を誑かし、この里を

異界にした張本人じゃ
奴は頭が回る

十中八九今回も

お主らの脱出を
邪魔するじゃろう

奴はこの異界と化した里の管理者じゃ

影の存在をも認識できるらしい
くれぐれも気をつけよ

● 氷と隠、合流。

あ、来た来た

色様しき

頼まれていたものは
こちらで合っていますか？

ん…、ああ

それで間違いない

影の遺骨えい…

まあ、もう遺灰いはいと化して

おるじゃろうが

…っ

隠かくれ、それを客人に

はい…

お兄さん

どうぞ

●箱を受け取る主人公。

落とすなよ

挙動不審だから心配♡♡

隠かくれも正直

持ってる時、手汗凄くて…

ここまで運ぶの怖かったです

でも、隠^{かくれ}程度にも出来たから

流石にお兄さんも…出来ます、よね？

ふん…

では人目を避けて

裏山から目的のトンネルに
向かうでしょう

行くぞ

●場面転換

●夜の森。気味が悪い雰囲気。

…大丈夫です

人の気配はありません

了解…

こっちも問題なし

●暗い山道を歩く一同。

隠^{かくれ}…

アンタ妊婦なのに大丈夫？

無理しない方がいいんじゃない？

あ…うん

少し動きにくいけど

なんとか…

はあ…ふう

なんか…

まさか、里からの脱出を

やり直す羽目に、なるとは…っ

思っ、て、なかつた

こんな感じ、だったのかな…

あの時

里を抜け出していたら

こんな感じ

じゃったのかも、しれんな

…っ

…ふっ

考えることは一緒か

●森から道に出る。目的のトンネルに到着。

お、着いたー？

ここで合ってます…よね？

ああ…

客人、影えい

儂らはこの里から

離れられない存在故…ここまでじゃ

そっか…

じゃーね、おにーさん

影えいっていつも

一人で強がってる雑魚だから
しっかり守ってやってね

氷こおり…っ

誰が雑魚よ、この雑魚

お兄さん…隠かくれと子供作ったのに

影えいちゃんで行っちゃうんですね…

鬼畜さんです

か、隠かくれ…？

でも、隠かくれも餓鬼がきなので

鬼畜のお兄さんとは相性抜群ですね

影えいちゃんよりも

っ…！

煽るの、こっちなんだ

名残惜しいが

時間も無いからのう

儂は一言だけにしておこう

いつか

また逢おう、
影^{えい}

色^{しき}：

うんっ

必ずっ：また

客人、後は
任せたぞ

●「任せて」と答える主人公。

●影^{えい}と二人でトンネルの中に入っていく。

●霧で周りが見えなくなる。

なんか

霧が出てきたね：

逸れないように

しないと

●手を繋いでくる影^{えい}。

んっ：

ほら、いいでしょ？

手を繋いでたら

逸れないから

ねえ：あのさ

このままトンネルを抜けたら
お別れに…なっちゃうんだよね？

貴方は元の生活に戻って
アタシは…成仏して

生きていた時代も
場所も、何も接点のなかった
貴方とアタシが出会えたのは…
この里が特別だったから

ねえ…

もし、ここで…
引き返したいって
言ったら…どうする？

この里が終われば
もう会えないんだよ？

アタシは…
このまま…ずっと
ずっと…っ

貴方と一緒に…いたい

アタシは、貴方さえいれば…っ
誰から見えなくてもいい

だから…っ

● 「それはできない」断る主人公。

どうして…？

どうして、駄目なの…？

アタシのこと…嫌い？

●「好きだよ」と答える主人公。

じゃあ…っ

●「君は影^{えい}じゃないよね」と看破する主人公。

何、言ってるの？

アタシだよ…影^{えい}だよ

アタシのこと

わからなくなっちゃったの？

雑魚なのっ？

●「…雑魚は嫌い？」と尋ねる主人公。

は？

嫌いに決まってるでしょ

雑魚なんて…っ

●「やっぱり影^{えい}じゃない」と答える主人公。

…！

…へえ

そうか…この娘はそう答えるんだね

生贄にしたから

あんまり詳しく知らないんだ

雑魚って貶すのに…

嫌いじゃないんだ？

面倒臭いね

人間の感情って

そう…私は影じゃない

君たち人間からは

物の怪とか、妖怪とか

あるいは…始まりの鬼と
呼ばれている

私は人を直接襲わない

あくまでも契約や取引で
貶める存在なんだ

そういう性質で

そういう現象

でもいいのかい？

さっきも言ったけど

この里に残って影と一緒にいれば

幸せになれるんだよ？

だって君たちは

愛し合っているんだよね？

離れたくないはずだ

影の過去を見ただろう

彼女は里に裏切られ

生贄にされて

誰からも見えない存在になって

数百年里を一人で彷徨った

君だけなんだよ

彼女を幸せにできる存在は

このまま里を終わらせたら
彼女の一生も終わる

消えてなくなる

これじゃあ

あまりにも救いがないと
思わないかい？

まさか来世なんていう

曖昧なものに希望を
見出しているのかい？

それはあまりにも

不確定で都合のいい妄想だよ

それでもアタシは…

しき こおり かくれ
色や氷、隠達と

また逢いたい

●本物の影^{えい}が登場。

生まれ変わったら

いつか逢えるかもしれないから

終わらない今より

未来に行きたい

影^{えい}：

君にも同じように

幻を見せてたはずだけど

そうだね：

いきなり戻って

結婚しようとか

その雑魚に迫られたわ

恋愛よりも

友情を選んだんだ

いや：正直

二つ返事で頷いちゃった

…？

でも、気づいたの

貴方はそんなこと言わないって

しき
色達に託された

むげ
願いを無碍にしないって

目の前の快樂よりも

一人ぼっちのアタシのことを
気にかけて連れ出すような：

そんなお人好しだから
アタシは好きになった

これでわかったでしょ

アタシ達は

そそのか
貴方に唆されない

：そうみたいだね
残念だ

●トンネルを抜けて、一步。大きく足音が響く。

：っ！

ここが：里の外：

●鈴虫の声が響く道路に出た二人。

やったんだ：

アタシ達：

やっ：

あ…、あれ

アタシ、手が透けて…

●体が透明になり、消え始める影。
えい

ああ

そっか…消えるんだ

アタシの遺灰が…
いはい

里の外に出たから

っ…

それ…重かったでしょ
ごめん…

貴方には迷惑かけたね
適当にそこらへん
埋めという

えっと、あの…
終わらせてくれて…
ありがとう

こおり 氷も かくれ 隠も、しき 色も…

これできつと

あの世に行ける

本当に、ありがとう…

本当は貴方に

沢山、たくさん…

お礼したいけど

時間がないみたい

うーん…

じゃあ、今度また

生まれ変わったらでいい？

その時に付き合ってあげるからさ
恋人になつて

沢山遊んで、夜も…沢山シて
幸せな…人生になるように

来世くらい…

幸せになれるといいな

なに泣いてるの…っ

ふんっ

涙腺雑魚じゃん

あっ…ああああっ

うっ、ぐすんっ、うううう…っ
っ…、うっ、うう…

くそっ…

アタシも、雑魚だあ…

はあ…、はあ…っ

ぐすんっ…へへっ

貴方は幸せに…

長生きしてね

…じゃ

ばいばい

●影^{えい}が消える。

●鈴虫の声だけが聞こえる。次第にフェードアウト。

●明るい昼間。駅前の雑踏。数十年後想定。

●主人公の足音。近くのベンチに座る。

んっ…

あ…もしもし？

今どこ？

もう…早く来てよ
待ってるんだから

はあ…

●通話を終了し、項垂れる少女。

ったく…本当雑魚なんだから

あ…すみません

声五月蠅かったですよね

…っ、ん…？

あれ、どこかで…

お会いしたことありましたっけ？

●複数足音が近づいてくる。

あゝお待たせゝ

ちよつと可愛い犬がいたから

写真とってたあ

見るゝ？

お姉ちゃんゝ

もう少し

申し訳なさそうにしないと
ダメだよっゝ

私も時間にはルーズだけど

それでも私以下なのは
危機感持った方がいいよ

はあゝ

言っておくけど

二人が遅刻したから遅れた
私も被害者

んゝ光 ひかり

その人知り合い？

いや、そういう訳じゃ
ないんだけどゝ

なんか

懐かしい感じがして

話しかけてた

みたいなゝ？

うっわ！

ナンパじゃん！

ひかり

光ちゃん…！

大胆…！

そういう趣味だったんか
意外…

うるさいなあ！

遅刻してきた雑魚共があ

ん…？

●「それ…かわいいですね」とスマホのストラップを褒める主人公。

え…

あ…、これですか？

可愛いですよね

ガチャガチャで見つけたんです

貴方も…

好きなんですか？

金魚

(終)